1 級　実技（面接）試験実施概要

実技（面接）試験は、以下の実施方法により行われます。

1．実施方法：ロールプレイ　……　　30 分
　　口頭試問　　……　　10 分（口頭試問は試験官からの説明・質問等も含みます）

2．事例は、次頁の 3 ケースのうち 1 ケースが出題されます。

3．受検者は、民間の相談機関等において、キャリアコンサルティングの実践を行いながら、キャリアコンサルタントに対して事例指導の役割を担っていると仮定してロールプレイを行います。

事例指導とは、相談者へのよりよい支援と、事例相談者のキャリアコンサルタントとしての成長を目的に、事例相談者の担当する事例を通して指導を行うものです。具体的には、相談者に対する面談過程、事例の見立てや対応の方針、組織への働きかけ、リファーやコンサルテーション、事例相談者に不足する態度、役割意識、知識やスキル等について、気づきを促し情報提供や助言を行うことです。

4．事例相談者（キャリアコンサルタントの役割）は試験係員が行います。

5．最初に事例相談者に対し 1 分程度で、受検者（事例指導者）から自己紹介（ご自身の専門領域や理論的な立場などについて）し、その後事例内容についての説明を求めてください。その後の事例指導の進め方は自由ですが、事例相談者との間に教育指導関係を築き、事例を通して事例相談者の問題を把握し、事例相談者への育成的な目標を設定するなど、具体的な指導を行うよう心がけてください。

6．受検室にボールペンとメモ用紙を 1 枚準備します。受検中は自由に使用可能です。なお､ボールペン、メモ用紙は一切持ち出しできません。

7．ロールプレイ後、口頭試問を行います。
口頭試問の例：
① この事例相談者の事例の進め方の問題は何でしょうか。
② 事例相談者の問題を事例相談者と共有するためにどのような働きかけをしましたか。
③ 事例相談者の問題に対してどのような目標を設定しましたか。その考えも併せて説明してください。

8．合格基準は 100 点満点で 60 点以上の得点です。評価区分は基本的態度、関係構築力、問題把握力、具体的展開力の 4 区分です。なお、評価区分ごとに満点の 60%以上の得点（所要点）が必要です。

9．厳正な採点を行うため、面接試験内容を録音します。受検者は受検に際し、資料等の持ち込み、録音は一切できません。なお、録音をしていた場合は失格となります。

＊1 級　実技（論述）試験の出題形式の変更に関するお知らせ
2023 年度より、以下の通り変更されました。
1. 出題形式：記述式による解答　1 ケース
2. 試験時間：80 分

厚生労働大臣指定試験機関
特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会
〒105-0021 東京都港区東新橋 2 丁目 11 番 7 号 住友東新橋ビル 5 号館 9 階
TEL 03-5402-4688

【1 級　第 14 回　実技（面接）試験　ロールプレイケース内容】

ロールプレイは、事例相談者と受検者（事例指導者）のみで行います。相談者に関することはロールプレイの中で、事例相談者に説明を求めてください。

ケース 1

事例相談者：キャリアコンサルタント（相談歴 2 年）

相　談　者：A さん、男性（31 歳）

相談者が相談したこと：先日外国人労働者 3 名が退職してしまった。この欠員の影響により大口案件で欠品が生じてしまい、社長から自分の行き過ぎた指導について厳しく注意された。今の会社には将来を期待されて転職したが、多分、もう幹部にはなれないと思う。親戚の会社から「ウチに来ないか」と声を掛けてもらっているし、再度転職しようかどうかと悩み、相談に来た。

キャリアコンサルタントが相談したいこと：A さんは社長に厳しく注意され、仕事に自信がなくなっている。そこで、A さんを肯定し、勇気づけるような面談を心がけた。また、相談者は安易に転職を決めてしまう傾向があると思われたため、先ずは自己分析を行う準備としてキャリアの棚卸しを提案したが、その後の来談はない。支援の方法に問題があったのではないかと思い、指導を受けたい。

ケース 2

事例相談者：キャリアコンサルタント（相談歴 2 年）

相　談　者：B さん、女性（30 歳）

相談者が相談したこと：不動産会社に入社して 8 年目になるが、これまでずっと賃貸仲介の窓口の仕事しかやってこなかったため、同期に比べると出遅れていると感じている。友人が転職サイトに登録したと聞き、自分も登録しようとしたが宅地建物取引士ぐらいしか書くことがなくてがっかりした。転職に有利な資格やスキルについて教えてほしいと思い、相談に来た。

キャリアコンサルタントが相談したいこと：B さんの出遅れ感や焦る気持ちを受け止め、これまで培ってきたことや強みに気付いてもらいたいと思い、これまでの経験を具体的に振り返ることを提案した。その上で今後必要な資格やスキルについて考えてもらおうと思っていたが、その後予約がない。どのように対応すべきだったのか、指導を受けたい。

ケース 3

事例相談者：キャリアコンサルタント（相談歴 2 年）

相　談　者：C さん、女性（22 歳）　私立四年制大学　社会学部 4 年生

相談時期：9 月

相談者が相談したこと：大学 3 年の夏からブライダル業界に絞り就職活動を始め、早くから選考に臨んだが全て不採用となった。その後気を取り直して活動し、業種の違う 2 社から内々定を得たが、両親の意見やインターネットの情報なども気になり、どうしたらよいかわからなくなった。1 年以上も就活を続けているのでもう終わりにしたいという思いもあるが、別の企業も受けた方がよいのか相談したい。

キャリアコンサルタントが相談したいこと：自己肯定感が下がっている様に感じたので、先ずは就職活動を頑張って来たことを労った。自己理解の不足が気になり、自己分析を改めて行うことを提案したが、次の来談はなかった。先日 C さんが未だに進路未定となっていることを知り、自分の対応のどこに問題があったのか、指導を受けたい。

以上